

総 説

1. 生	い	た	ち	1						
2. 位	置	及	び	地	勢	2				
3. 気					象	3				
4. 市	域	の	う	つ	り	か	わ	り	4	
5. 人						口	5			
6. 市		庁				舎	7			
7. 市	史	・	市	旗	・	市	民	歌	等	9

▶ 鹿児島市役所本館



総 説

1 生いたち

鹿児島市は、薩摩・大隅（鹿児島県）・日向（宮崎県南部）の三国を統治した島津氏の城下町として発展してきた。

禄高77万8千石、天下第二の大藩、“丸に十の字”の紋に羽振りをきかした島津氏の城下町として、鹿児島市が藩政の中心となり、南九州の雄都の地位を占めるに至ったのは、第6代島津氏久が東福寺城（現鹿児島市清水町）を居城にした時に始まる。

以後、明治4年まで、実に500年間在城し、この間、第18代島津家久は、鹿児島城（鶴丸城）を築城、城山の緑を背景とした屋形造りの居城を中心に、門割制度と郷中教育という独特の制度による島津氏の治世が続いた。

この連綿たる島津氏の藩政に根ざし、鹿児島市は、南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげたのである。

大陸や南洋諸島に近いという立地条件から、必然的に琉球を中継地として早くから貿易も活発に行われ、また、大陸文化やヨーロッパ文化の門戸となった。

古くは15世紀の中頃、桂庵によって日本最初の朱子学の書物が出版され、わが国の朱子学の発展の基礎をつくったり、16世紀の中頃フランシスコ・ザビエルが上陸し、わが国で最初にキリスト教を伝えたことなどは、その代表的なものである。

さらに、近世に入っては19世紀の中頃、新しいヨーロッパの機械文明を取り入れた磯一帯は、わが国における近代文明の発祥の地となった。

ここでは、反射炉や溶鋳炉がつくられ、西洋式の大砲や弾薬、ガラス、蒸気船など多くの機械文明が生み出された。

これは、積極進取の気性に富んだ名君であった第28代島津斉彬の英断によるものである。

近代日本の黎明、明治維新においては、薩摩藩の元勳西郷隆盛・大久保利通等がその原動力となり、以後、幾多の英傑が輩出した。

その人脈系列をみると、黒田清隆・松方正義・山本権兵衛が歴代総理大臣を務めたのをはじめ、大山巖・西郷従道・東郷平八郎等が陸海軍の大臣、大将として活躍し、教育界では森有礼（初代文部大臣）、実業界では五代友厚が、また、文化面でも八田知紀（歌人）・黒田清輝・藤島武二（以上洋画家）・有島武郎（小説家）など各界の大家が続出している。

明治4年、廃藩置県とともに県庁の所在地となり、同22年4月には市制が施行された。

本市は第二次世界大戦の戦火で市街地の9割を焼失したが、市民のたくましい建設意欲のなかで思い切った都市計画が策定され、将来の躍進に備える礎がつくられ、戦後は観光・商工業の発展とともに市域は次第に拡大し、昭和42年4月29日には隣接の

谷山市と合併して人口38万人の新鹿児島市が誕生、昭和55年7月には人口50万人を突破した。

一方、国際・国内親善を深めるため、昭和35年5月にイタリアのナポリ市と、昭和49年4月にはオーストラリアのパース市と、平成2年11月にはアメリカのマイアミ市と姉妹都市の盟約を結び、昭和57年10月には中国の長沙市と友好都市盟約を締結し、さらに令和元年11月にはフランスのストラスブール市とパートナーシップ協定を締結した。また、昭和44年11月には、山形県鶴岡市と兄弟都市の盟約を結び、以来、親善を深めている。

平成8年4月には、中核市へ移行し、よりきめ細かな市民サービスの提供と個性豊かな魅力あふれるまちづくりを積極的に進め、南の拠点都市としてさらなる飛躍を目指すとともに、平成12年4月地方分権一括法の施行に伴い、地方分権の時代に対応した生きがいを実感できる地域社会づくりの推進に全力を傾注してきている。

その後、平成16年11月1日には、隣接する吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併、人口60万人の県都として新たな一歩を踏み出し、新生鹿児島市の均衡ある発展と、それぞれの地域特性を生かした新しい魅力を持った鹿児島市の創造に取り組んでいる。

また、令和4年度には、新型コロナから市民のいのち、くらし、しごとを守ることを最優先に、ワクチン接種の促進など、感染拡大防止対策を講じるとともに、物価高騰等、困難に直面している市民や事業者への支援に取り組んだほか、電子図書館や病児・病後児保育の予約、住民票の申請など、インターネットによるオンラインサービスの導入、民間事業者と連携したデジタル人材の育成、鹿児島駅周辺整備の完了、天文館の新たなランドマーク「センテラス天文館」、 「天文館図書館」のオープン、スマート農業技術の導入支援、高度な観光人材の育成、「燃ゆる感動 かがしま国体・かがしま大会」開催に向けたPR活動、桜島の大規模噴火に備えた住民避難訓練、待機児童解消や児童虐待防止に向けた体制強化と支援の充実など、ハード・ソフトの両面から具体的施策を推進した。

現在、本市は、ポストコロナを見据え、人口減少時代に生き残り、住みたいまち、訪れたいまちとして、さらに成長した鹿児島市を築くため、「“地域の稼ぐ力”向上」、「“子どもの未来輝き”推進」、「ICTで住みよいまち”推進」を重点的に取組とし、人もまちも躍動する鹿児島市の実現に向けて、各施策を積極的に推進している。

2 位置及び地勢

本市は、九州の南端、鹿児島県本土のほぼ中央部にあって、東経130° 23′ から130° 43′、北緯31° 17′ から31° 45′ に位置し、北は始良市、西は日置市、南は指宿市などと接している。鹿児島湾をはさんで桜島を含んだ東西約33km、南北約51kmの風光明媚な都市である。

市街地は、鹿児島湾に流入している甲突川等の河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100mから300mの丘陵地帯（シラス台地）となっている。

また、鹿児島市のシンボルとして知られている桜島（1,117m）は、市街地から約4kmの対岸にある。

3 気 象

過去5年間の平均によると、本市の気温は夏季最高気温36.0℃、冬季最低気温0.0℃、平均気温19.2℃であり、温暖な気候に恵まれている。

年間降水量は2,609mmで、6月～8月にかけてもっとも多く、この時期で年間降水量の50%を占めている。

平均風速は3.3m/秒で、東寄りの風が吹く日には、活発な火山活動を続けている桜島の火山灰が市街地に降ることがある。

（令和4年の桜島噴火回数235回、鹿児島市役所本庁での年間降灰量118 g/m²）

５ 人 口

(1) 人 口

① 人口の推移

(単位：世帯，人)

区 分		平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年
鹿児島市	男	273,618	278,644	281,611	281,389	281,133	279,108	276,130
	女	308,634	315,786	320,082	322,978	324,713	320,706	316,998
	計	582,252	594,430	601,693	604,367	605,846	599,814	593,128
	世帯数	216,278	231,922	246,955	255,276	264,686	270,269	279,644
鹿児島県	男	842,474	840,980	837,979	819,646	796,896	773,061	748,306
	女	955,350	953,244	948,215	933,533	909,346	875,116	839,950
	計	1,797,824	1,794,224	1,786,194	1,753,179	1,706,242	1,648,177	1,588,256
	世帯数	659,880	688,646	716,610	725,045	729,386	724,690	728,179

1) 各年国勢調査（合併による1市5町の合計数）

② 世帯構成

世帯人員（10区分）別一般世帯数及び一般世帯人員

(単位：世帯，人)

区 分	一 般 世 帯									
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上
世帯数	117,959	80,133	40,906	28,249	9,567	1,728	346	92	25	6
世帯人員	575,590									

1) 令和2年国勢調査

(2) 産業別人口

① 産業別15歳以上就業者数

(単位：人，%)

区 分	市 県 別	鹿 児 島 市				鹿 児 島 県	
		平成27.10.1		令和2.10.1		令和2.10.1	
		就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
第 一 次 産 業	農 業， 林 業	3,379	1.2	3,090	1.1	56,882	7.7
	漁 業	219	0.1	212	0.1	4,582	0.6
	小 計	3,598	1.3	3,302	1.2	61,464	8.3
第 二 次 産 業	鉱業、採石業、砂利採取業	50	0.0	45	0.0	533	0.1
	建 設 業	22,014	8.1	21,964	8.1	60,268	8.1
	製 造 業	17,982	6.7	16,977	6.3	77,992	10.6
	小 計	40,046	14.8	38,986	14.4	138,793	18.8
第 三 次 産 業	電気・ガス・熱供給・水道業	1,424	0.5	1,475	0.5	4,207	0.6
	情 報 通 信 業	5,342	2.0	5,223	1.9	7,461	1.0
	運 輸 業， 郵 便 業	13,985	5.2	13,629	5.0	31,733	4.3
	卸 売 業， 小 売 業	52,901	19.6	50,870	18.7	111,847	15.1
	金 融 業， 保 険 業	7,977	3.0	7,724	2.8	13,395	1.8
	不動産業、物品賃貸業	5,521	2.0	5,580	2.1	9,773	1.3
	学術研究、専門・技術サービス業	8,813	3.3	9,062	3.3	17,368	2.4
	宿泊業、飲食サービス業	17,578	6.5	16,794	6.2	41,639	5.6
	生活関連サービス業、娯楽業	10,344	3.8	10,230	3.8	25,729	3.5
	教 育， 学 習 支 援 業	15,635	5.8	16,803	6.2	39,329	5.3
	医 療， 福 祉	47,344	17.6	53,375	19.7	135,814	18.4
	複 合 サ ー ビ ス 事 業	2,400	0.9	2,124	0.8	9,986	1.4
	サ ー ビ ス	16,417	6.1	17,916	6.6	40,758	5.5
	(他に分類されないもの)						
	公 務	10,674	4.0	10,750	4.0	36,009	4.9
小 計	216,355	80.3	221,555	81.6	525,048	71.1	
分 類 不 能 の 産 業	9,761	3.6	7,560	2.8	13,038	1.8	
合 計	269,760	100.0	271,403	100.0	738,343	100.0	

1) 各年国勢調査

② 産業大分類，従業上の地位別15歳以上就業者数

(単位：人)

従業上の地位別	総数	雇用者	自営業主	家族従業者
産業別				
総数	271,403	240,204	21,111	5,260
農業，林業	3,090	1,281	1,256	533
漁業	212	138	52	16
鉱業，採石業，砂利採取業	45	45	-	-
建設業	21,964	17,270	3,768	714
製造業	16,977	15,555	1,086	192
電気・ガス・熱供給・水道業	1,475	1,454	9	4
情報通信業	5,223	4,837	341	20
運輸業，郵便業	13,629	12,899	539	31
卸売業，小売業	50,870	47,106	2,503	958
金融業，保険業	7,724	7,466	187	23
不動産業，物品賃貸業	5,580	4,614	734	201
学術研究・専門・技術サービス業	9,062	6,975	1,667	378
宿泊業，飲食サービス業	16,794	14,357	1,667	642
生活関連サービス業，娯楽業	10,230	7,697	1,991	471
教育，学習支援業	16,803	15,627	1,003	96
医療，福祉	53,375	51,162	1,329	522
複合サービス事業	2,124	2,074	25	9
サービス業 (他に分類されないもの)	17,916	15,524	2,010	201
公務 (他に分類されるものを除く)	10,750	10,750	-	-
分類不能の産業	7,560	3,373	944	249

- 令和2年国勢調査
- 総数には従業上の地位「不詳」を含む。雇用者には役員，自営業主には家庭内職者を含む。

(3) 年齢3区分別人口及び年齢構造指数の推移

年	年齢別人口(人)			年齢別割合(%)			年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数
	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上				
平成12年	86,269	377,347	88,475	15.6	68.3	16.0	22.9	23.4	46.3	102.6
平成17年	87,591	403,208	113,505	14.5	66.7	18.8	21.7	28.2	49.9	129.6
平成22年	84,416	388,674	127,446	14.1	64.7	21.2	21.7	32.8	54.5	151.0
平成27年	80,965	358,756	145,300	13.8	61.3	24.8	22.6	40.5	63.1	179.5
令和2年	75,680	321,038	158,804	13.6	57.8	28.6	23.6	49.5	73.0	209.8

- 各年国勢調査(平成12年までは旧鹿児島市)
- 年齢不詳は，含まず。

$$\cdot \text{年少人口指数} = \frac{0\sim 14\text{歳人口}}{15\sim 64\text{歳人口}} \times 100$$

$$\cdot \text{老年人口指数} = \frac{65\text{歳以上人口}}{15\sim 64\text{歳人口}} \times 100$$

$$\cdot \text{従属人口指数} = \frac{0\sim 14\text{歳人口} + 65\text{歳以上人口}}{15\sim 64\text{歳人口}} \times 100$$

$$\cdot \text{老年化指数} = \frac{65\text{歳以上人口}}{0\sim 14\text{歳人口}} \times 100$$

(4) 人口動態			(単位：人)						
区分	年		平成29	平成30	令和元	令和2年	令和3年	令和4年	
	自然動態	出生	男	2,707	2,704	2,415	2,486	2,404	2,192
女			2,558	2,641	2,369	2,314	2,377	2,218	
計			5,265	5,345	4,784	4,800	4,781	4,410	
死亡		男	2,981	2,985	3,027	2,932	3,054	3,363	
		女	3,054	3,000	3,136	3,062	3,140	3,642	
		計	6,035	5,985	6,163	5,994	6,194	7,005	
増減			△770	△640	△1,379	△1,194	△1,413	△2,595	
社会動態	転入	県内	男	4,829	4,760	4,860	4,597	4,573	4,516
			女	5,223	5,079	4,959	4,873	4,649	4,650
		県外	男	6,090	6,111	6,065	5,950	5,843	6,246
			女	4,871	5,108	4,781	4,629	4,589	5,033
		計	21,013	21,058	20,665	20,049	19,654	20,445	
	転出	県内	男	4,283	4,232	4,177	3,950	4,052	4,223
			女	4,200	4,159	3,928	3,769	3,812	3,971
		県外	男	6,909	6,744	7,080	6,483	6,255	6,467
			女	6,051	6,158	6,267	5,572	5,350	5,673
		計	21,443	21,293	21,452	19,774	19,469	20,334	
		増減		△430	△235	△787	275	185	111
	人口増加		△1,200	△875	△2,166	△919	△1,228	△2,484	
	6 市庁舎								
本別館 東別館 西別館	館位置	山下町11番1号							
		敷地	8790.42㎡						
		建物	(延)9,306.01㎡（地下1階，地上3階，塔屋3階）						
	館位置	山下町10番30号							
		敷地	7,158.2㎡（東別館敷地を含む）						
		建物	(延)10,343.84㎡（地下1階，地上4階，塔屋1階）						
	館位置	山下町10番30号							
		敷地	7,158.2㎡（別館敷地を含む）						
		建物	(延)11,102.83㎡（地下1階，地上12階，塔屋1階）						
	館位置	山下町13番1号							
		敷地	4,933.59㎡						
		竣工	昭和61年8月25日 工費 3,789,052千円						

	建 物	(延)10,687.47㎡ (地下1階, 地上4階, 塔屋1階)
	竣 工	平成27年3月20日 工費 3,340,360千円
みなと大通り	位 置	易居町1番2号
別 館	敷 地	4,521.32㎡ (駐車場敷地を含む)
	建 物	(延)11,358.09㎡ (地下2階, 地上7階, 塔屋3階)
	竣 工	昭和45年9月23日
支 所	谷山支所	谷山中央四丁目4927番地
	敷 地	5,751.53㎡
	建 物	本館(延)4,609.5㎡ (地上4階, 塔屋1階) 別館(延)607.8㎡ (地上2階)
	竣 工	昭和53年10月30日 工費 873,000千円
伊 敷	支 所	伊敷五丁目15番1号
	敷 地	2,569.18㎡
	建 物	(延)2,689.67㎡ (地上4階, 塔屋1階)
	竣 工	平成4年8月10日 工費 902,547千円
吉 野	支 所	吉野町3256番地3
	敷 地	5,025.06㎡
	建 物	(延)1,496.88㎡ (地上2階)
	竣 工	平成9年12月22日 工費 501,846千円
吉 田	支 所	本城町1696番地
	敷 地	4,657.9㎡
	建 物	第1庁舎(延)1,454.59㎡ (地上2階) 第2庁舎(延)346.8㎡ (地上2階)
	竣 工	第1庁舎 昭和47年10月1日 工費 68,600千円 第2庁舎 平成4年10月1日 工費 38,673千円
	増 築	第1庁舎(1階) 昭和61年3月1日 工費 26,893千円 第1庁舎(2階) 平成4年10月1日 工費 4,880千円 第1庁舎 平成28年3月9日 工費 37,336千円
桜 島	支 所	桜島藤野町1439番地
	敷 地	5,960.94㎡
	建 物	庁舎(延)2,210.95㎡ (地上2階, 塔屋1階) 倉庫付車庫236.00㎡ (地上1階)
	竣 工	昭和53年11月1日 工費 312,218千円
東桜島合同	庁舎	東桜島町863番地1
	敷 地	4,187.66㎡

建 物	(延)1,717.88㎡（地上2階，うち支所636.52㎡）
竣 工	昭和56年12月28日 工費 344,000千円
喜入支所	喜入町7000番地（喜入公民館との複合施設）
敷 地	6,922.23㎡
建 物	(延)3,385.55㎡（地上3階一部平屋建て） （うち支所1,336.62㎡）
竣 工	公民館ホールを除く複合施設部分 平成23年9月30日 工費 828,939千円
松元支所	上谷口町2883番地
敷 地	9,724.00㎡
建 物	本館(延)3,406.34㎡（地上4階） 公用車庫棟(延)437.64㎡（地上2階）
竣 工	昭和62年3月1日 工費 657,512千円
郡山支所	郡山町141番地
敷 地	26,685.78㎡
建 物	本館(延)2,943.51㎡（地上4階） 公用車庫棟(延)722.08㎡（地下1階，地上2階）
竣 工	昭和61年11月28日 工費 779,089千円

7 市史・市旗・市民歌等

(1) 市 史

市制施行80周年記念事業として、勝目 清氏（元鹿児島市長）と北川鉄三氏の監修のもと、昭和41年から46年にかけて鹿児島市史を編さんし、第Ⅰ巻～第Ⅲ巻を発行した。

また、市制100周年記念事業として、前回は引継ぎ、昭和42年以降約20年間の市史を芳 即正氏の監修のもと、昭和63年から平成2年にかけて編さんし、第Ⅳ巻を発行した。

さらに、市制125周年・新生鹿児島市10周年記念事業として、前回は引継ぎ、平成元年以降約25年間の市史を宮廻 甫允氏の監修のもと、平成25年から27年にかけて編さんし、第Ⅴ巻を発行した。

第Ⅰ巻	歴史編	昭和44.2.28発刊	784頁	1,550部
第Ⅱ巻	現代編	昭和45.3.25発刊	1,140頁	1,400部
第Ⅲ巻	資料編	昭和46.2.28発刊	1,013頁	1,300部
第Ⅳ巻		平成2.3.15発刊	1,037頁	1,200部
第Ⅴ巻		平成27.3.27発刊	1,236頁	800部

(2) 市旗の制定（昭和46. 9. 1制定）

昭和47年に鹿児島で開催された国民体育大会を契機に、市民の連帯感を高め、伝統と明日への発展を象徴するものとして市旗を定めた。市旗の図案は市民（市の出身者を含む）を対象に一般公募した。市旗制定委員会で応募作品215点を審査し、準入選2点を選定したが、入選該当者がなかったためこれを合作し、補作したものを市旗として制定した。

(3) 市民歌の制定（昭和47. 6. 15制定）

鹿児島市民としての連帯感を高め、郷土に生きる喜びと将来の飛躍を象徴するものとして、市民歌を制定した。歌詞は全国から一般公募した。市民歌制定委員会で応募作品534編を審査し、鹿児島市小山田町の高城俊男氏の作品を入選と決め、これを補作した。作曲は、中田喜直氏に依頼した。

(4) 名誉市民（昭和42. 4. 29条例第3号）

選 定

名誉市民は、市長が市議会の同意を得て決定する。

表 彰

名誉市民の事績は、市公報で公表し、表彰状、名誉市民章及び記念品を贈呈して表彰する。

待 遇

市の公の式典への参列等

名誉市民受章者

勝目 清氏 元鹿児島市長 昭和34年5月18日、名誉市民の称号を贈られ、昭和46年7月の死去に際しては、市民葬が執り行われた。

浜平勇吉氏 元鹿児島市議会議員 昭和50年7月17日の死去に伴う同月21日の市議会葬において名誉市民の称号を追贈された。

赤崎義則氏 元鹿児島市長 平成17年3月29日、名誉市民の称号を贈られ、平成31年4月12日の死去に伴い、従四位に叙せられた。

中村晋也氏 彫刻家、文化勲章受章者 平成26年9月29日、名誉市民の称号を贈ることが決定され、同年11月1日、名誉市民の称号授与式が執り行われた。

(5) 市民荣誉賞（平成26. 3. 28規則第35号）

対 象 者

市民、本市に活動の本拠を置く団体又は本市にゆかりの深い個人で、広く市民に親しまれ、市民に明るい夢と希望を与えるとともに、市民の誇りとなる顕著な業績

があったもの。

受賞者

- 今給黎教子氏 平成4年8月3日に受賞
平成4年7月15日に、日本人女性として初めてヨットによる単独無寄港世界一周に成功された。
- 本郷かまと氏 平成14年4月14日に受賞
平成14年3月20日に、114歳で長寿世界一となられた。
平成15年10月31日、116歳で逝去された。
- 赤崎 勇氏 平成27年6月25日に受賞
平成26年12月10日に、青色発光ダイオードの発明により、ノーベル物理学賞を受賞された。
令和3年4月1日、92歳で逝去された。
- 稲盛 和夫氏 平成27年11月16日に受賞
本市の国際交流の進展に大きく寄与され、青少年の育成や市民福祉の向上など市勢発展に貢献された。
令和4年8月24日、90歳で逝去された。

(6) 市民表彰（平成26.3.28規則第35号）

対象者

永年にわたり市勢の発展に尽力し、又は市政に協力してきた、市民、団体又は本市にゆかりの深い個人で、特に顕著な功績があったもの。

受賞者

受賞年度	氏名	主な功績
平成26	豊永 義夫	本市市消防団長として、消防組織の充実と地域防災力の向上に大きく貢献された。
	吉田 ミツ江	本市女性団体連合会会長として、女性の社会参画の推進とぬくもりのある地域づくりに大きく貢献された。
27	西郷 幸夫	本市防火協力会連合会会長として、防火協力会組織の充実と本市の火災予防に大きく貢献された。
	永田 明子	おはら祭の振付指導者として、祭の発展と本市の文化振興に大きく貢献された。
28	松田 政信	市老人クラブ連合会会長として、高齢者の社会参加の促進と高齢者福祉の向上に大きく貢献された。
	肥後 辰彦	市食品衛生協会会長として、食の安心・安全の推進と食の魅力の向上に大きく貢献された。
29	海江田 順三郎	本市日中友好協会会長として、本市の国際交流の推進をはじめ、さまざまな分野において市勢の発展に大きく貢献された。

平成 29	米山 昭規	本市民生委員児童委員協議会会長として、地域住民の福祉の向上と安心して暮らせる社会づくりに大きく貢献された。
30	福永 初	本市農業委員会会長として、農地の流動化の推進をはじめ、本市の農業振興に大きく貢献された。
	森山 清隆	本市職業訓練協会会長として、技能者の育成や技能の向上など、本市産業の発展に大きく貢献された。
令和 元	赤崎 昭夫	本市衛生組織連合会会長として、環境衛生の向上と安心して暮らせるまちづくりに大きく貢献された。
	尾前 民子	本市母子寡婦福祉会会長として、母子家庭や寡婦の方々の福祉の向上と生き生きと暮らせるまちづくりに大きく貢献された。
2	宮廻 甫允	本市総合計画審議会会長として、本市の総合的なまちづくりに大きく貢献された。
	安田 雄一	本市選挙管理委員会委員長として、適正な選挙の管理執行と投票環境の向上に大きく貢献された。
3	諏訪 健作	本市公平委員会委員長として、公正・中立な人事行政の確立に大きく貢献された。
	音野 知子	本市スポーツ推進委員協議会会長として、地域のスポーツ・レクリエーション活動の普及・振興を通じ、市民の健康、生きがいづくりに大きく貢献された。
4	船倉 功	本市固定資産評価審査委員会委員長として、適正な固定資産課税行政の推進に大きく貢献された。
	杉木 和子	NPO法人犬猫と共生できる社会を目指す会鹿児島理事長として、動物愛護活動の普及・啓発に大きく貢献された。

(7) スポーツ栄誉賞（平成26. 3. 28規則第35号）

対象者

市民、本市にゆかりの深い個人又は団体で、スポーツの分野における国際的な活躍を通じて、スポーツに対する市民の関心を高めるとともに、市民の誇りとなる顕著な業績があったもの。

受賞者

宮下 純一氏 北京オリンピック競泳男子400mメドレーレー銅メダル獲得により、平成20年9月10日に表彰式が執り行われた。

迫田さおり氏 ロンドンオリンピック女子バレーボール競技銅メダル獲得により、平成24年9月3日に表彰式が執り行われた。

川畑 瞳氏 東京2020オリンピックソフトボール競技金メダル獲得により、令和3年8月23日に表彰式が執り行われた。

(8) 芸術文化栄誉賞（平成26. 3. 28規則第35号）

対象者

市民、本市にゆかりの深い個人又は団体で、芸術文化の分野における活躍を通じ

て、芸術文化に対する市民の関心を高めるとともに、市民の誇りとなる顕著な業績があったもの。

受賞者

加藤久仁生氏 第81回アカデミー賞短編アニメ賞の受賞により、平成21年3月8日に表彰式が執り行われた。

(9) 市木・市花

(昭和 43. 11. 1 制定)

市木	くすのき	常緑樹（南国的）で高木（雄大）となり、成長力（発展性）が旺盛で、鹿児島市のシンボルとして親しまれる樹木
市花	きょうちくとう	本市に生育している草木・花木の中で花候が長く、南国の日射しと青い空が似合う夏を代表する花で、鹿児島市のシンボルとして親しまれる花

(10) 平和都市宣言

平和で豊かな郷土を次の世代に引き継ぐために、再び戦争による惨禍を繰り返さないことを誓い、あらゆる国の核兵器の全面廃絶と国是である非核三原則の遵守を希求し、世界の恒久平和の達成を願い、平成2年2月26日、「平和都市」を宣言した。

<× ㄷ>